

1 諮問・答申文

小 企 企 第 1 0 0 号

平成 2 2 年 1 1 月 1 5 日

小 山 町 総 合 計 画 審 議 会
会 長 坂 本 全 人 様

小 山 町 長 高 橋 宏

第4次小山町総合計画の諮問について

第4次小山町総合計画（基本構想・基本計画）について、別添のとおり策定いたしましたので、小山町総合計画に関する規程第7条第2項並びに第8条第1項により、貴審議会の意見を賜りたく諮問します。

小総審第 1 号

平成 23 年 2 月 2 日

小山町長 高橋 宏 様

小山町総合計画審議会

会長 坂 本 全 人

第 4 次小山町総合計画の答申について

平成 22 年 11 月 15 日付け小企企第 100 号により諮問のあった第 4 次小山町総合計画(基本構想・基本計画)について、当審議会は 7 回に亘る審議会の開催及び基本目標別に 3 部会を設置し、調査研究を行い、加えて、総合計画町民企画委員会議の傍聴を行うなど慎重且つ積極的に審議を行い、審議会委員の意見集約を行いました。その結果は次のとおりであり、ここに答申いたします。

答 申

第 4 次小山町総合計画については、国政、社会情勢が不透明且つ不安定な状況の中にあつて、10 年後の将来像を思い浮かべながら、理想を現実のものとするための計画を策定することは非常に難事であり、それなりの見識が求められます。このような状況下において的確な情勢判断を行い、この町を豊かで住みよい町にするためには、町民が主体であることを全面に出し、行政と一体化する協働・共創の施策に重点を置いたことは大いに賛同するところです。計画策定に携わった関係の方々に敬意を表します。

第 1 部 序論

地域のことは地域の住民が決める「地域主権」が標榜され、国と地方の関係が大きく変革されようとしている時、従来の総合計画とは異なった意味での今後 10 年間の目標はもとより、計画、施策が設定されなければならないと考えられます。このような環境において、“計画策定の基本的な考え方”として「町民の力、地域の力」に重点を置き、行政と協働による町づくりを策定し、社会情勢の変化を念頭にそれらに柔軟に対応する心構えを取り上げたことは時宜を得たものであります。

なによりも、計画策定の段階において町民企画委員の活発な意見交換、町民へのアンケートによる民意の集約を積極的に取り入れ、本総合計画に反映したことは評価するところです。

平成 22 年流行語大賞の中に「無縁社会」がありました。社会から孤立する人達が、都市・農村を問わず全国的にその現象が現れていることは事実であります。このようなことを“コミュニティの希薄化”として捉え問題点としたことは、地域活性化への取り組みに意義があります。

本町の課題として、(1) 富士山との共生、(2) 活気の創出、(3) 定住と交流が挙げられています。いずれも、問題点、その求められるものが的確に把握されています。十分な対応を期待します。

第2部 基本構想

自主自立、健体康心、協働・共創の理念は共通理念として適正であります。

将来指標としての基本人口の設定は、全国的に人口減少の時代となり、想定人口の算出は下降値となる中で、平成32年人口を2万人としたことは、町発展に大いなる意欲が感じられます。願わくば、各種施策の実行において、より以上の人口確保を期待します。

山間部が多数を占める小山町にとって、土地の利活用は町の発展に重要な役割を持ちます。土地利用ゾーンや交流拠点については、新東名の開通を視野に入れて構想していることは時宜を得たものであります。

土地利用は、ゾーン毎の特色を十分に生かしながら活用し、状況の変化には、見直しも含め俊敏に対応していくことを求めます。

施策の大綱については、小山町の将来像に向けて4つの基本目標、35の基本施策の柱に対してそれぞれの課題を設定し、具体的施策の展開を図ることとしていますが、それぞれ適切に選定されています。実効ある推進を願うところです。

第3部 基本計画

小山町の将来像を描きながら策定された基本構想を受けて、具体的に施策を実行するための基本計画は、5年間に実施する事柄についてキメ細かく策定されています。

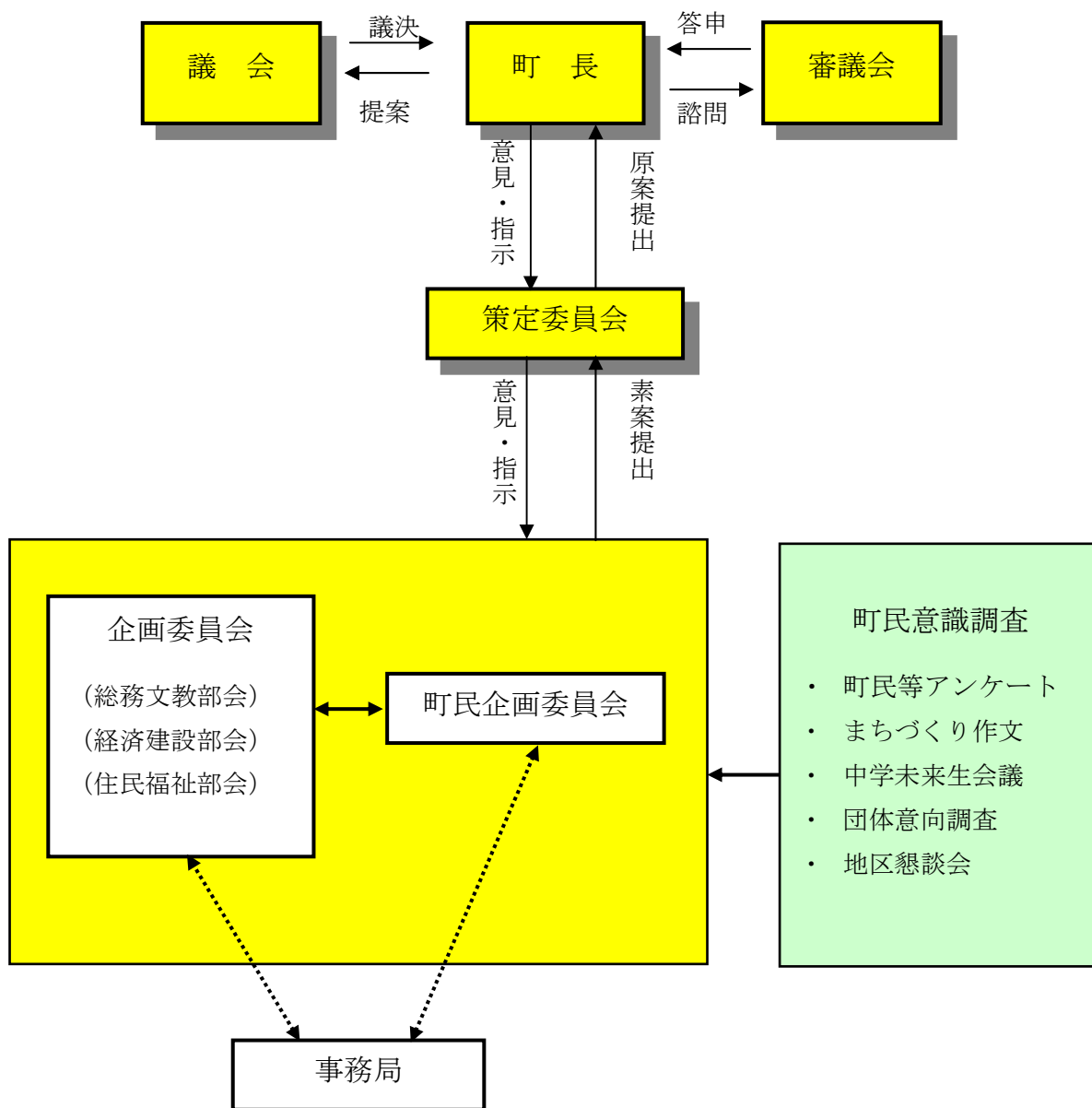
施策と予算、重点施策プロジェクトの推進、各施策すべてに行政と町民による協働の姿を掲げ、開かれた町政を目指していることは評価に値すると同時に、共感するところでもあります。

「定住促進プロジェクト」「活気交流プロジェクト」「顔の見える関係づくりプロジェクト」は子育て、教育、人口増への基盤づくり、小山町の自然環境を生かした活気と交流の推進、協働・共創を基本に取り組む姿の追求は基本計画を推進する拠り所として力強さを感じます。

しかしながら、計画の実行、施策の実施を推進するには幾多の難関、難問が横たわっていることも事実であります。これらを乗り越え成果を挙げるには、行政の強力なリーダーシップと町民の協働への積極的な参加が求められます。

以上を踏まえて、都市計画審議会、行政改革懇談会、地域福祉計画等各種機関の計画が、総合計画と整合性を図りながら、策定・実施されることについて、関係機関と十分に意思統一を行い、それぞれが第4次小山町総合計画の理念と合致する計画策定に配慮されることを望みます。

2 策定機構



第4次小山町総合計画

3 策定経過

日程	事項	主な内容
平成 20 年 11～12 月	総合計画住民意向調査 (アンケート調査)	・町内在住の18歳以上を対象に無作為抽出 1,500 票配布、回収は 756 票 回収率 50.4%
平成 21 年 6 月～	総合計画審議会、町民企 画委員の依頼	・審議会委員20名(各団体の長等に依頼、承諾書の受領) ・町民企画委員25人の選考(各種団体の長 10 名、成美・明倫・足柄・ 北郷・須走から各2名、公募 5 名)
6 月 12 日	総合計画策定小中学生作 文の依頼	・小学校5年生及び中学校2年生に総合計画策定に関する作文依頼
7 月 1 日	策定基本方針の決定	・策定の趣旨及び目的、計画の構成及び計画期間、・策定の視点
7 月 15 日	第 1 回総合計画策定委 員・企画委員合同委員会	・策定方針、小山町の概要(資料)説明、アンケート結果の概要報 告、・策定スケジュールについて
7 月 15 日	第 2 回企画委員会	・部会長の選出、・評価シートの作成依頼
7 月 28 日	第 1 回町民企画委員会議	・委嘱書の交付、策定方針、小山町の概要、アンケート結果、策定ス ケジュールについて説明
9 月 28 日	第 1 回総合計画審議会	・委嘱書の交付、会長及び副会長の選任、・策定方針、小山町の概 要、アンケート結果の報告、スケジュール等について説明
9 月 30 日	第1回中学生未来会議	・小山中学校6人、北郷中学校4人、須走中学校4人の計14人の2グ ループによるワークショップ方式で実施 ・町外の友人に紹介できる小山町のいいところ、案内したい場所は？ ・多くの人に小山町にきてもらえるためにどんなまちにしたいか？
10 月 1 日	第1回地区懇談会 (小山地区)	・総合計画策定の概要、・町民アンケートの紹介、・近年10年程度の 地区の変化と課題について意見聴取
10 月 2 日	同 (足柄地区)	〃
10 月 5 日	同 (北郷地区)	〃
10 月 6 日	同 (須走地区)	〃
10 月 7 日	団体意向調査の実施	・商工会、観光協会、企業懇話会、社会福祉協議会、連合青年団、 連合婦人会、老人クラブ連合会、子ども会育成連合会の8団体に調 査シートの記入依頼
11 月 4 日	第2回中学生未来会議	・このまちの良いところ、良くないところ？ ・将来も小山町で住み続けるためにどんなまちにしますか？ ・将来のまちの姿について。(キャッチフレーズ)
11 月 5 日	第2回地区懇談会 (小山地区)	・小山町における協働の取り組み ・地域が協働して取り組むべき課題 ・地域、行政、企業が協力できる場面について意見聴取
11 月 6 日	同 (足柄地区)	〃
11 月 9 日	同 (北郷地区)	〃
11 月 10 日	同 (須走地区)	〃
12 月 4 日	第 3 回企画委員会	・各種会議の報告、総合計画構成(案)、人口フレームについて説明
12 月 15 日	第 2 回策定委員会	・各種会議の報告、総合計画構成(案)、人口フレームについて説明
12 月 16 日	第 2 回町民企画委員会議	・小中学生作文の結果について、各種会議の報告、総合計画構成 (案)、人口フレームについて

日程	事項	主な内容
平成 22 年 1 月 8 日	第 4 回企画委員会	・総務文教部会、住民福祉部会、経済建設部会の3部会ごとにランク付けの見直し
1 月 14 日	第 5 回企画委員会	・策定の背景と町の主要課題について ・将来像について、施策の大綱(将来像を実現するための6つの柱) ・基本計画部門別計画シートの記入について検討
1 月 20 日	総合計画まちづくり講演会	講師:山田桂一郎氏「地域が価値残るために」 150人参加
2 月 10 日	総合計画策定小中学生作文の報告	・小学校5年生185人、中学校2年生187人の合計372人から提出があり、事務局でそれぞれ20作品を選び、さらにこれを総合計画町民企画委員に選考してもらい、最優秀賞1、優秀賞2、入選6を決定。
3 月 11 日	第 3 回町民企画委員会議	・人口フレーム、策定の背景と町の主要課題、基本構想の理念・将来像・施策の大綱について説明 ・3部会で重点プロジェクトについて検討
3 月 17 日	第 2 回総合計画審議会	・計画期間、評価シート、地区懇談会、団体意向調査、小中学生作文及び中学生未来会議、町民企画委員まちづくり提言、計画策定にかかる進捗状況について報告
5 月 26 日	第 6 回企画委員会	・基本構想(案)について検討 ・基本計画部門別計画シートについて検討
6 月 8 日	第 4 回町民企画委員会議	・基本構想(案)について検討
6 月 24 日	第 5 回町民企画委員会議	・基本構想(案)について部会別に検討
6 月 29 日	第 7 回企画委員会	・町民企画委員会議の報告 ・基本構想(案)、基本計画(案)について検討
7 月 9 日	第 8 回企画委員会	・基本計画(案)について部会別に検討
7 月 15 日	第 6 回町民企画委員会議	・基本構想(案)、基本計画(案)について部会別に検討
8 月 3 日	第 7 回町民企画委員会議	・基本構想(案)、基本計画(案)について部会別に検討
8 月 24 日	第 3 回策定委員会	・基本構想(案)、基本計画(案)について検討
8 月 24 日	第 3 回総合計画審議会	・基本構想(案)、基本計画(案)について検討
10 月 15 日	第 8 回町民企画委員会議	・基本計画(案)について(3部会)
10 月 27 日	第 9 回企画委員会	・基本構想(案)、基本計画(案)について検討
11 月 5 日	第 4 回策定委員会	・基本構想(案)、基本計画(案)について検討
11 月 5 日	第 4 回総合計画審議会	・町長が総合計画(基本構想・基本計画)案を諮問 ・基本構想(案)について検討
12 月 8 日	第 5 回総合計画審議会	・基本構想(案)、基本計画(案)について部会別に検討
12 月 20 日	第 6 回総合計画審議会	・第 2・3 部会 基本計画(案)について検討
12 月 24 日	〃	・第 1 部会 基本計画(案)について検討
平成 23 年 1 月 5 日～ 17 日	小山町町民意識に関するアンケート	・基本計画の目標値の現状値把握を主として実施。町内在住の 20 歳以上を対象に無作為抽出 1,000 票配布、回収は 482 票 回収率 48.2%
1 月 31 日	第 7 回総合計画審議会	・総合計画答申(案)について検討
2 月 2 日	答申書の提出	・審議会坂本会長、湯山副会長から町長へ答申
2 月 4 日	第 5 回策定委員会	・総合計画(案)の答申について報告
2 月 18 日	議会全員協議会	・総合計画の概要について説明
2 月 25 日	3月議会にて基本構想議決	・基本構想の決定

4 策定名簿

■町民企画委員

氏名	推薦団体等	所属部会
秋田悦夫	公募による委員	総務文教部会
池谷美枝子	各地区推薦委員(成美地区)	経済建設部会
稲 稔	各地区推薦委員(足柄地区)	総務文教部会
岩田則美	各地区推薦委員(成美地区)	住民福祉部会
岩田弘幸	各地区推薦委員(明倫地区)	総務文教部会
岡部俊彦	小山町文化連盟	総務文教部会
小野寺秀典	小山町観光協会	経済建設部会
梶 光代	小山町連合婦人会	住民福祉部会
加藤さち子	各地区推薦委員(足柄地区)	住民福祉部会
菅沼正光	小山町消防団	住民福祉部会
小見山英一	NPO 法人小山町体育協会	総務文教部会
小見山福江	各地区推薦委員(須走地区)	経済建設部会
菅原睦雄	小山町防災士連絡会	住民福祉部会
高橋晴美	小山町連合婦人会	住民福祉部会
塚原昌代	各地区推薦委員(明倫地区)	住民福祉部会
牧野京子	各地区推薦委員(北郷地区)	総務文教部会
渡辺喜康 山崎健一(H22.4.1～)	小山町商工会	経済建設部会
湯山正治	小山町農業委員会	経済建設部会
米山貞夫	各地区推薦委員(須走地区)	経済建設部会
岩田忠次	公募による委員	経済建設部会
原 秀人	小山町社会福祉協議会	住民福祉部会
渡辺 巧	各地区推薦委員(北郷地区)	総務文教部会
日野 匠	公募による委員	総務文教部会
富川州三	公募による委員	経済建設部会
保坂 進	公募による委員	経済建設部会

(五十音順)

■小山町総合計画審議会委員

(◎：会長、○：副会長)

職	氏名	役職等	部会
	青木 利枝子	連合婦人会会長	第三部会
	池谷 よね子	連合婦人会健康づくり食生活推進部長	第三部会
	岩田 祥吾	健康づくり推進協議会会長	第三部会
	尾崎 宏也	教育委員会委員長	第三部会
	小野 清夫	農業委員会会長	第二部会
	尾上 サトル	民生委員・児童委員協議会会長	第三部会
	川口 良子	㈱川口建築都市設計事務所 専務取締役	第一部会
	込山 恒広 仲井 民夫(H23. 1. 11～)	議会議長	第一部会
	斎藤 礼志	観光協会会長	第二部会
	坂田 芳乃	静岡県総務部東部地域支援局次長	第二部会
◎	坂本 全人	社会福祉協議会会長、都市計画審議会会長	第三部会
	渋谷 一	P T A連絡協議会会長	第一部会
	高橋 豊宏	社会教育委員会委員長	第一部会
	田代 六男	老人クラブ連合会会長	第三部会
	野村 俊秀	ユニバーサル製缶㈱富士小山工場長	第二部会
	森脇 基恭	ノバエンジニアリング取締役	第二部会
○	湯山 宏一	区長会会長	第一部会
	湯山 鉄夫 岩田 治和(H23. 1. 11～)	議会副議長	第二部会
	吉川 榮	都市計画審議会副会長	第一部会
	米山 享雄	商工会会長	第二部会

(五十音順)

- ・審議会規則第2条第2項 第一部会（土地利用、行政、防災等）、第二部会（産業、道路、交通等）、第三部会（教育、福祉、上・下水道等）

5 【参考】未来会議・作文

愛馬と共に暮らす町 (小)

小山町は土地が広く、夏は暑くならないので馬にとっても過ごしやすい。高速道路や、富士山静岡空港を使えば馬の輸送も苦にならない。また、馬術競技の馬の生産を行えば、オリンピックでメダルも夢ではないのではないかと。

商店を増やして活気ある町 (小)

小・中学校の人数が減ってきているので、子どもの数が増え、町全体の人が楽しく、そして安全に暮らせる町になれば、町が活性化するとと思う。そのためにお店を増やして欲しい。

便利に住みやすい町 (北)

今の小山町には店が少ないため服や食料などを遠くまで買いに行かなければならない。さまざまな種類の店を作り、町全体を活気づけたい。そうすれば人口も増加して、さらに有名になる。

みどりたち+α (北)

自然は減らさなくて欲しい。交通の便をよくして、都心に行きやすくしてほしい。田舎だけではない町にして欲しい。きれいな水や美しい景色などは残し、環境に配慮した、もっと住みやすい町になれば人口が減ることはないのではないかと。

作文募集は昨年6月に行い、小学5年生と中学2年生から計372件の応募がありました。小学生の部、中学生の部から、それぞれ最優秀賞1名、優秀賞2名、入選6名が選ばれました。

＜中学生の部 最優秀賞作文＞

「住みよい町にするために」

小山中学校2年 堀口美咲さん



私はこの小山町が大好きだ。小山町は自然豊かで緑が生き生きとおいしげっている。富士山もあり、水もきれいだ。だけどこの小山町は、もっと活力のある町に変われると思う。

私はそこで小山町がどのようになれば、どのように活性化すればいいかを考えてみた。

一つは小山町が緑や水、自然に対する意識をさらに高め、PRすることが大切だと思う。小山町は元から緑があふれ植物が生き生きと育っている。これを使わないなんてもったいないにちがいないと思う。もっと登山者の興味をひきつけるような施設を設けるべきであると思う。例えば山のコースの道を増やして好きな所から行けるようにしたり、家族で楽しめる大自然を利用したアスレチックを作ったりするなど、ただ普通に登って終わりではなく、その前、その後、その途中の過程に注目して、世代と問わず、楽しめる明るい小山町になったらいいと思う。

次に小山町に必要なことは、町全体での取り組みや行事をたくさん増やすことと、町でのルールを作ることだ。小山町全体でのコミュニケーションをはかることでの利点は、町全体に活気が生まれることだ。観光客に明るく良い印象をあたえることで、町全体も明るくなっていくと思う。また、町全体での行事を設けることによって、町の人との団結力や信頼が深まり、町のことを愛し、町の人を愛せるいいリズムが作られてくると思う。それに、町での団結力や信頼が深まっていると、その様子が行事に参加する人に出てきて、観光客の目にもいい形として残ると思う。

小山町は今良い方へと突き進んでいると思う。それをさらに活性化させるためには、私たちがのような活気あふれる若い人たちだと思ふ。小山町に住みよい町にするために、活気あふれる町にするために、ボランティアなどの小さな活動から参加していきたい。

誰でも快適に暮らせる町 (須)

どんな年齢でも過ごしやすく、体が不自由な人でも、子どもでも自由に住むことができ、町の中を動けるようになってほしい。そのために、公共施設などのバリアフリー化を進めて、外食や買い物満足にできる町になっていけばよい。

暮らしやすい小山町 (須)

就職できる環境を整えたり、大学を作ったりして、小山町に一生住んでも困らない、そして楽しい人生が送れるようにしたい。小山町には介護施設が少ないので、その対策もしていけたらいいと思う。

＜小学生の部 最優秀賞作文＞

「こんな町になったらいいな」

足柄小学校5年 小見山夏緒さん



わたしは、緑ゆたかな公園ができればいいなあと、思います。今の緑ゆたかな小山町を生き、木をたくさん植えたり、きれいな水のふんすいを作ったりします。花もたくさんさいていて、その周りにはちょうがとんでいるような感じがいいなと思います。池には魚がいて、たくさん木に、夏にはせみがいないでいて、鳥も住めるような自然の中で遊んでみたいと思いました。

都会にはたくさんの高いビルがあります。そして、空気が少しきいたくないです。水もあまりきれいな水ではありません。でも田舎は、高い山々があり、空気もとても気持ちよく水もとってもきれいです。特に小山町は、水がとってもきれいです。都会も大事だけど、田舎を生かしたせつ備も良いと思います。

鳥やせみ、魚が住める大自然の公園ができれば、遊具で遊ぶのもいいけどじゅうぶんに楽しいと思います。春にはちょうちょうがたくさんいて、夏にはせみが鳴き、秋には落ち葉落ちて、冬には葉が落ちた木があったり、季節が感じられる公園にもなると思います。

そんな公園が小山町にあったら、小山町に住んでいない別の人も見に来て、小山町のことをたくさん知ってもらえると思います。イベントもやったりするような公園がいいなあと、思います。

広報おやま 2010年3月号



「ただいま会議中」

中学生 未来会議

町では、今後のまちづくりを方向づける第4次総合計画を策定中です。中学生から、今後のまちづくりについて意見を聴くと、昨年の9月と11月に会議を行いました。

また、町の将来やまちづくりをテーマに、小学5年生と中学2年生から作文を募集しました。未来会議での中学生の意見と、小・中学生作文の最優秀賞作品を紹介します。

- ①…小山中3年生
- ②…北郷中3年生
- ③…須走中3年生

「あなたが、将来も小山市で住み続けるために、どんなまちにしたいですか？」

みんなの住みたくなる町 ①

人口が少なくなるのは、さびしいのでなんとかしたい。交通の便を良くし、お店を増やす、学校を増やす。自然を大切に。定年退職者で田舎に住みたい人と呼ぶ**町民が元気になる町** ②

住みよいまちづくりをしていくために資金が必要になるので、町民と行政機関が信頼し合えるようになるという。町民が集まって、いろいろなことをするための施設が増えるという。

自然を残しつつ住みよ町へ ③

バスや電車などの充実、ショッピングモール、病院をつくる。あまりやりすぎると他の都市とかわらなくなるので小山町らしさ、例えば緑が多いこと、水がおいしいことなどを残すことも大切。

都会と田舎が合併! ④

今のよう自然を残し、田舎のよくな風景も残すが、ショッピングモールなどもあり、不便がなく都会的な町を見せられたらいい。

自然と絆の町 ⑤

今は、かなり自然が多い町だと

思うから自然を残す。また、人と人とのつながりが強いから、もっとそれを広げて町全体が良いことと有名にしたい。他から来た人にもフレンドリーに接して、仲よくなれたらいい。

活気あふれる小山市 ⑥

公共施設や商業施設などの生活面をもっと充実させて、生活面から活気あふれる町になるといい。生活排水や教育施設はまだ不十分な所もあると思うので、小山市全体がもっと便利に、過ごしやすい町になっていくといい。

富士と共に明るい町 ⑦

小山市は富士山を見ることができ、富士山のわき水もいろいろな事に使っている。だけど、まだ問題となっていることはたくさんあって、解決されていない。少しでも問題を解決し、富士山と共に明るい町を目標に、よりよい小山市を目指していきたい。

住民の力で商店街、公園を活性化してエンジョイさせよう! ⑧

今の小山市は、店や公園が少なく、公園が老朽化しているので、商店街を活性化させ、公園の整備をすればいい。子どもからお年寄りまで多くの方が小山市で楽しめるようにしたい。



小山町

第4次小山町総合計画（2011～2020）

富士をのぞむ 活気あふれる 交流のまち おやま

編集 小山町 企画総務部 企画調整課
〒410-1395
静岡県駿東郡小山町藤曲 57-2
TEL：0550-76-6133

発行 平成23年 3月

協力 (株)地域まちづくり研究所